



有松まちづくりの会役員会 （6月23日）

活動資金の確保のため、初めて絞りまつりで試みた「お日様染めキット」販売について、事業部の山田さんより報告がありました。色々な課題はあるものの活動資金を少しでも増やせるよう今後も取り組んでいくこととしました。

7月26日に実施される「有松小花火大会」の時、こども縁日の手配や参加者の交通整理などを担当することとしました。

来春に開催する「春の有松さんぽみち 福よせ雛と町歩き」事業に名古屋まちづくり公社から助成を受けられることになったと報告がありました。

▼△ まちの話題 △▼△

来年の雛はどんな顔？ 桜花学園大学で福よせ雛制作 （5月26日）

人形供養に出されたお雛様を福よせ雛として再生し、有松の応援団になっていたかどうかの取り組みも来春11回目となります。この度、有松東海道の展示される福よせ雛の制作が大学生41名により行われました。絞り布や造花、キラキラモールやメイク道具などを上手に使用して、個性的で楽しい福よせ雛が大勢出来上がりました。

また、5月13日には国際学部国際学科の2年生が地域フィールドワークの授業で有松に来てくださいました。雪花絞り実習後、絞会館・山車会館・岡家住宅見学を含め町並みを有松あないびとの会の案内で廻り、一部学生は竹田家住宅で茶室体験にも臨んだようです。

東丘小学校3年生 有松で地域学習 （5月29日）

自分たちの住んでいる地域を知ろう、と90名の皆さんが有松あないびとの会の案内で有松東海道を熱心に見学しました。当日は12グループに分かれ、有松駅や東海道の町並み、山車会館をあないびとと見て回りました。「東海道は本当に東京まで続いているの?」「有松の古い町並みが残っているのはなぜ?」などの素朴な疑問に答えながら、あないびとの皆さんも楽しく必死?にご案内されていました。後日届いた子ども達からのかわいい素朴なお礼の手紙に、あないびとの方々は相好を崩されていました。

有松小学校体育館でけん玉大会 （6月15日）

東海地区（岐阜、静岡、愛知、三重）の小学生代表を決める大会。参加者は45名、家族や運営関係者を含め約300名が体育館に集まっていました。息を詰めるほど緊張の熱戦でしたが、冷房のお陰で体育館内は快適。

決勝大会は8月24日(日)東京・池袋サンシャインシティ噴水広場で開催。

まちの風景



中町山車庫・年行司



第41回 有松絞りまつり（6月7日～8日）

天候にも恵まれ、2日間で約9万人が有松を訪れてくださいました。

◆ 世界に風を起こすSHIBORIシャツ

昨年のエンブレムフラッグ(写真右)制作で有松との連携を更に強めた名古屋グランパスと、今年は有松絞りTシャツ(写真右下)制作で絆を強めました。Tシャツのデザインは国際ファッション専門職大学3年生有志、選手やサポーターの投票を経て決定。青とオレンジの2色。有松・グランパス・サポーターを3本線で表し、周りを巻き込んで上昇していく図柄。祇園寺境内で限定販売されました。9000円(税込み)。チラシで紹介されていたためか、買い求める為に来場した人も多く記者も取材で有松駅にいたとき、販売場所を聞かれたりしました。



◆ 絞り浴衣博覧会 （有松・鳴海絞会館）

「産地職人による絞り実演」や「私の推し浴衣展示」「絞りの浴衣ができるまで展示」を通して、有松絞りの技法や絞りの浴衣スタイリング展示がされていました。

絞り製品のショッピングはもちろん、その技法への関心も年々強まっているようです。とりわけ熟練の括り職人が一堂に会するこの会場では、食い入るように軽快な指さばき見、巧みな会話に引き込まれているようです。

なお、有松郵便局東では若手職人による実演が行われ、関心を集めていました。

会場の一角にマンガのパフレットが・・・積極的に有松を紹介されているおざわゆきさんの描かれたもの。近年、漫画やSNSなどで有松絞りの魅力が発信されるようになり来場者数の増加に役立っているようです。右下写真のように入店者を制限するため行列ができるお店も見られました。



◆ 絞り体験 大盛況

雪花絞り体験（祇園寺境内）／手蜘蛛絞り体験（絞りLab前）／流し染め体験（早恒染色）／絞り教室プレミアム：日傘・ストール（早恒染色）

以上4か所で行われていましたが、次々と参加者が訪れていました。特に日傘など難度の高い体験も受付早々に定員に達していました。棚橋家住宅での有松絞り×美濃和紙うちわづくりにも多くの人が押し寄せ、お気に入りの1本を作っていました。



他にも、パレードや山車のからくり実演が絞りまつりに彩を添えていました。岡家住宅公開や町並みツアー・信長路史跡ツアーは有松の歴史への理解を深めるのに大いに役立ったことでしょう。

● 布袋車大幕制作実演展示（有松山車会館）

布袋車の大幕復元新調の制作過程パネルが展示され、興味深く見学される人もいました。

現在、正面幕（鳳凰と応龍の尾・雷文図）と後面幕（漢詩文・雷文図）の復元新調が終わり、左面図の作業に取り掛かっています。京繡（きょうぬい）の伝統工芸士である小橋岳氏が担当されていますが、そのお父君の小橋守氏（伝統工芸士）が京繡の実演披露をしてくださいました。次々と訪れる見学者に丁寧に対応していました。

なお、左面幕の完成は2026年3月、右面幕は2029年です。完成が待ち遠しいです。



左面幕の復元新調の様子
見学者と談笑する小橋守氏 ⇒



▶ 細根山「オアシスの森」へ行きませんか

有松絞りまつりでは、毎回「有松よもやま話」8話を会場内8か所の高札にそれぞれ置き、来場者にプレゼントしています。その内の1話を紹介します。

湯地昭夫スケッチブック①

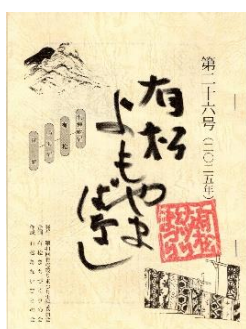


小山園（しょうざんえん）細根の小径



有松よもやま話は今回で26号。有松の楽しいよもやま話が満載です。

ご購入の方は
有松あないびとの会へ
お申し出ください。



翠音sui-on 二胡とカーヌーン演奏

(6月14日)

於:Café T-Ryuju

西町を歩いていると、竹田嘉兵衛商店の向かいT-Ryujuから悠久の時を感じさせる音色が流れてきた。室内には10名程、有松絞りをイメージした「藍ラテ」などを口にしながら音色に身をゆだねている。中国伝統楽器・二胡(写真右:仁科裕子)と中東琴・カーヌーン(写真左:森山友理)の合奏。チラシに「ここでしか聴けないシルクロードで繋がる旋律の世界へようこそ」とある。まさにその世界が演出されていた。

有松町家ライブ ボサノバサンバ(6月15日)於:寿限無茶屋

ヴォーカル・パーカッション ゲーリー杉田(写真左)の軽妙な語りがいい。21回に及ぶ渡伯で培ったブラジル音楽への深い洞察をもとに、演奏の合間ごとにその歴史を語ってくださったのだが、参加者30名程は笑い声を交えながら聞き入っている。

ギターの中沼浩(写真右)は対照的に物静か。演奏の腕は言うまでもない。

町家ライブは7月8日お休みとのこと。

【次回予告】9月21日(日) 17:00~ 寿限無茶屋
サマーワイライトジャズライブ



お誘い 夏限定 ワークショップ 奉納 虹色ふうりん をつくろう

東海道を歩いていると、中町年行司の前に涼しげな風鈴がいくつも吊り下げられている。中では試作品制作の真っ最中。伺ったお話をまとめると・・・



【暑い夏に風鈴トンネルを散策し、涼やかな音色を聞くことで涼もう！】

○ 風鈴トンネルは天満社下の広場「虹橋」に設置されます。

○ 風鈴作りのワークショップが中町年行司で行われます。

毎週 水・土曜日 11:00~16:00 別の日でも可 事前予約が必要:080-5118-9539

○ 制作した風鈴は持ち帰ることができます。付録短冊に願い事を書いて虹橋の「風鈴棚」に奉納。

奉納期間は令和7年10月31日まで。お預かりしたものは令和8年1月14日にお焚き上げします。

○ 参加費 (奉納)ふうりん1個 1000円【夏の自由研究にいかがですか?】

有松天満社文嶺講の、多くの方々に参拝していただくための様々な工夫に感服。

催事・行事予定

7月14日(月) 18:00 町並み相談会 有松コミセン

7月26日(土) 15:00 子ども縁日 絞会館バス駐車場 有松まちづくりの会

19:30 有松小花火大会 有松小グランド 有松小PTA

7月27日(日) 7:30 かえで道清掃 有松まちづくりの会

7月28日(月) 18:30 有松まちづくりの会役員会 有松コミセン

発行者 中濱 豊(有松まちづくりの会 会長)

編集者 加藤明美(有松まちづくりの会 広報部長)

pegasusb@mc.ccnw.ne.jp 取材・撮影 伊藤総俊

有松まちづくりの会はホームページを公開しています。「有松のまち」で検索。



紫陽花「有松」

《編集後記》

有松絞りまつりに多くの方が足を運んでくださった。その訳は? 有松に何を求めてやってくるのかを知ることから有松の次なる一步を考えたい。